



“地域のことは地域で考えよう”

2019年2月27日

おきぎん県内景況・速報

2019年1月

—県内景況は、拡大している—

■個人消費

スーパー売上高は、全店ベースは前年同月を上回り、既存店ベースは前年同月を下回る。

百貨店売上高は前年同月を上回る。

家電卸出荷額は前年同月を上回り、新車販売台数は下回る。

■建設関連

公共工事請負金額は前年同月を下回る。

生コンは前年同月を上回り、セメントは下回る。

■観光関連

入域観光客数は前年同月を上回り、観光施設入場者数も上回る。

ホテル稼働率はシティホテル、ビジネスホテルが前年同月を上回り、リゾートホテルは下回る。

ホテル客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入(推計値)は下回る。

■企業倒産

件数は前年同月を上回り、負債総額は下回る。

現場主義とお客様からの信頼

※お気づきの点、不明な点などがございましたら、下記までご連絡ください。

(株)おきぎん経済研究所

TEL:098-869-8711 FAX:098-869-2200

おきぎん県内景況・速報(2019年1月分)

◎2019年1月 おきぎん「カトレア」景況図

県内景況



◎概況：県内景況は、拡大している。

1月の県内景況は、個人消費関連では、スーパー売上高は、全店ベースは前年同月を上回り、既存店ベースは前年同月を下回りました。百貨店売上高は、前年同月を上回りました。耐久消費財である家電卸出荷額は、前年同月を上回りました。新車販売台数は、前年同月を下回りました。

建設関連では、公共工事請負金額は、国や市町村などによる発注工事の減少などで前年同月を下回りました。建設資材である生コンは前年同月を上回り、セメントは下回りました。

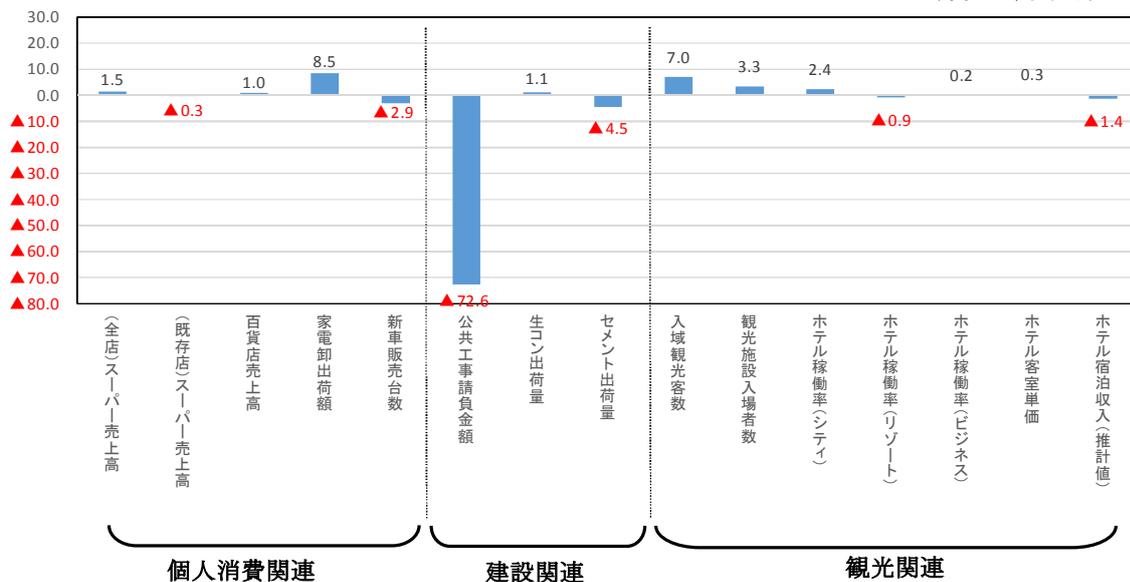
観光関連では、入域観光客数は4ヵ月連続で前年同月を上回り、観光施設入場者数も前年同月を上回りました。ホテル稼働率はシティホテル、ビジネスホテルが前年同月を上回り、リゾートホテルは下回りました。ホテル客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入(推計値)は下回りました。

このような状況に鑑みて、個人消費や建設関連が概ね堅調であり、観光関連では堅調な動きが継続していることなどから「県内景況は拡大している」と景気判断を据え置きました。

(2014年2月の上方修正後から60ヵ月連続で判断維持)

主要景気指標前年同月比

(単位: %、ポイント)



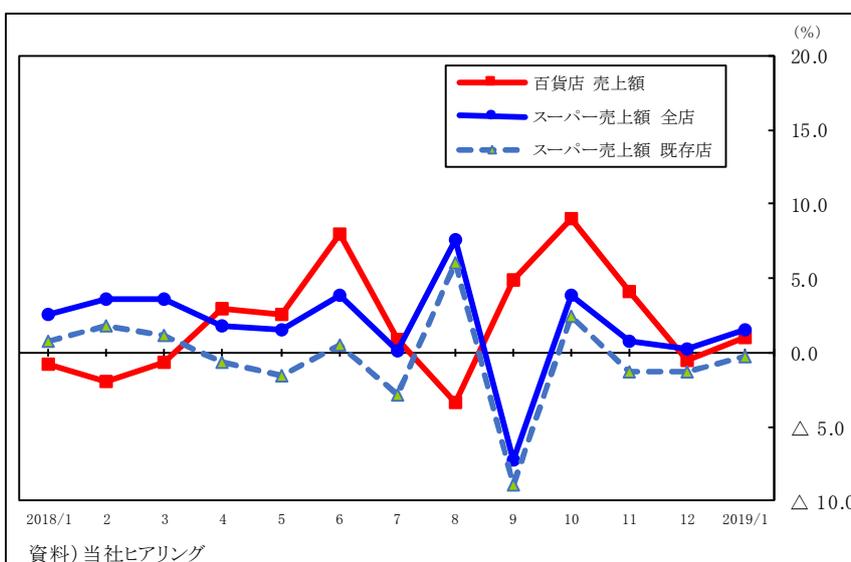


■ 個人消費： (やや良い)

① スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は、全店ベースは前年同月を上回り、既存店ベースは前年同月を下回る。百貨店売上高は前年同月を上回る。

単位：%

	スーパー売上額		百貨店 売上額
	全店	既存店	
2018/1	2.6	0.8	△ 0.8
2	3.6	1.8	△ 1.9
3	3.6	1.2	△ 0.6
4	1.8	△ 0.7	3.0
5	1.6	△ 1.5	2.6
6	3.8	0.5	8.0
7	0.1	△ 2.9	0.9
8	7.6	6.1	△ 3.3
9	△ 7.2	△ 8.9	4.9
10	3.9	2.4	9.0
11	0.8	△ 1.3	4.1
12	0.3	△ 1.3	△ 0.5
2019/1	1.5	△ 0.3	1.0



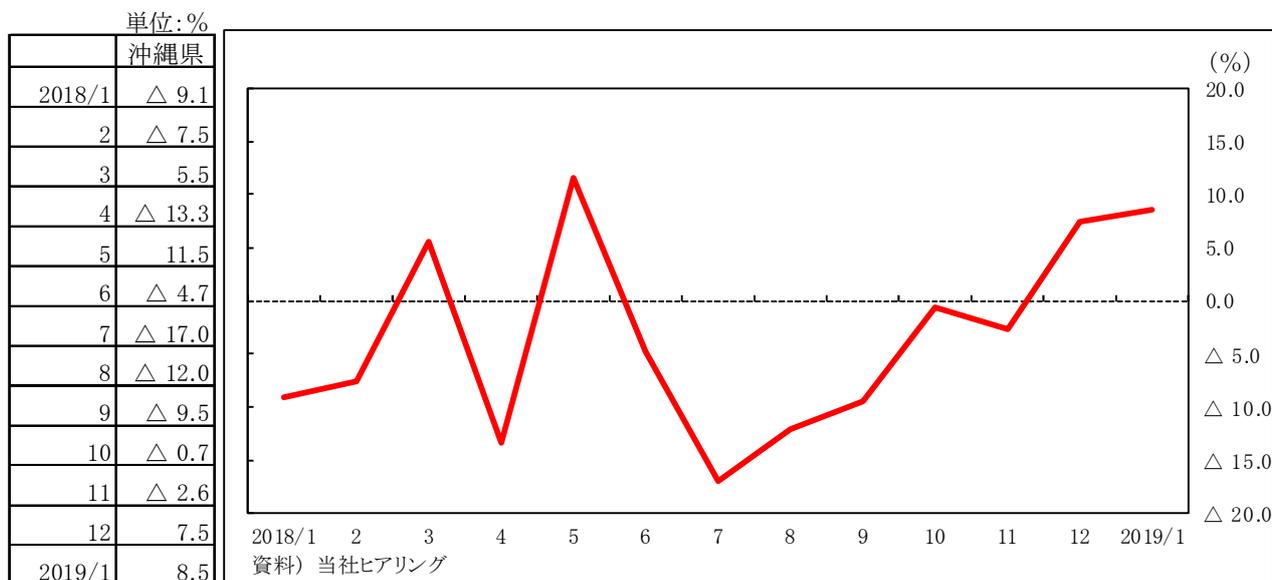
注) 前年同月比

1月の個人消費関連では、スーパー売上高「全店ベース(前年同月比 1.5%増)」は、新規出店効果などにより、「食料品(同 1.6%増)」、「家庭用品(同 2.4%増)」の売上が伸び、4ヵ月連続で前年同月を上回りました。

「既存店ベース(同 0.3%減)」は、前年に比べ気温が高く推移したことなどから、冬物商材を中心に売上が伸び悩み、3ヵ月連続で前年同月を下回りました。品目別では、ウエイトの高い「食料品(同 0.5%減)」は、鍋物関連の商材の売上が伸びず、前年同月を下回りました。「衣料品(同 3.7%減)」は、前年に比べ気温が高く推移した影響などから、冬物商材を中心に売上が伸びず、前年同月を下回りました。一方、「家庭用品(同 1.1%増)」は、化粧品や、テレビ、エアコンなど家電の売上が伸び、前年同月を上回りました。

百貨店売上高は、2ヵ月ぶりに前年同月を上回りました(同 1.0%増)。内訳をみると、ウエイトの高い「衣料品(同 6.0%減)」は、販促企画を開催するも、前年に比べ気温が高く推移したことにより「紳士服(同 3.7%減)」、「婦人服(同 6.3%減)」、「子供服(10.9%減)」などで冬物商材の売上が伸び悩み、前年同月を下回りました。靴、バッグなどの「身の回り品(同 15.9%減)」は、売り場面積が縮小したことなどから売上が減少し、前年同月を下回りました。一方、「食料品(同 10.0%増)」は、物産展を新規開催したことにより売上が伸び、前年同月を上回りました。また、「雑貨(同 11.5%増)」は、売り場のリニューアル効果などにより、前年同月を上回りました。

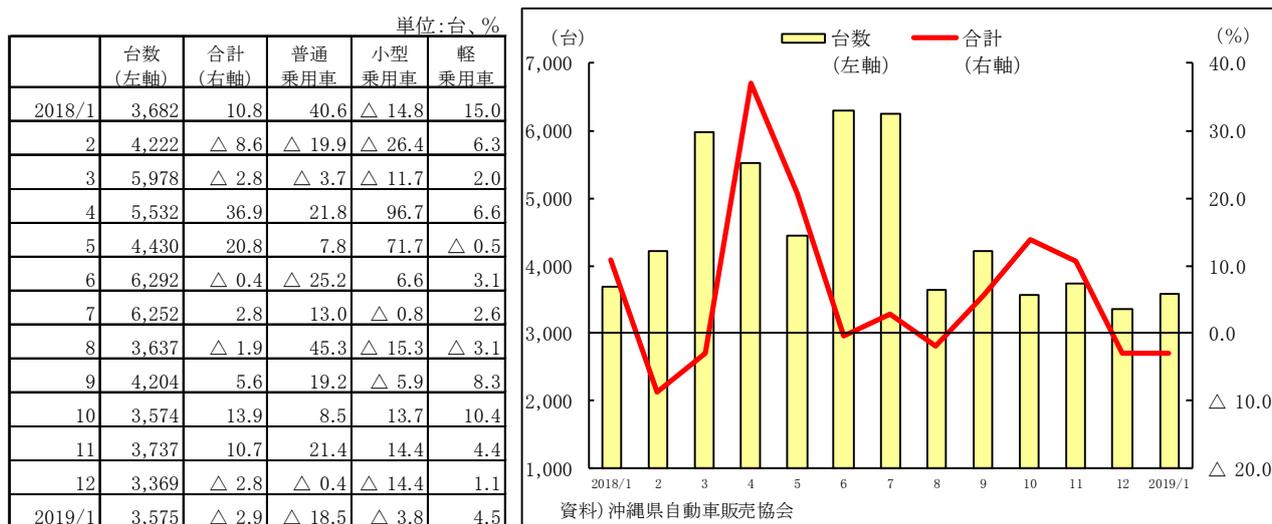
② 家電卸出荷額…家電卸出荷額は2ヵ月連続で前年同月を上回る。



注) 前年同月比

家電卸出荷額は、冷蔵庫、VTRなどの売上が伸び、2ヵ月連続で前年同月を上回りました(同8.5%増)。品目別では、「テレビ(同 0.2%減)」は、高価格帯商品の売上が伸び悩み、前年同月を下回りました。「洗濯機(同 9.2%減)」、「エアコン(同 6.1%減)」は買い替え需要が低調だったことから、前年同月を下回りました。一方、「冷蔵庫(同 12.1%増)」は、省エネタイプや大型タイプの買い替え需要が好調に推移し、前年同月を上回りました。また、「VTR(同 35.7%増)」は、4Kチューナー内蔵型の録画機が好調に推移し前年同月を上回りました。

③ 新車販売台数…新車販売台数は、2ヵ月連続で前年同月を下回る。



注) 前年同月比

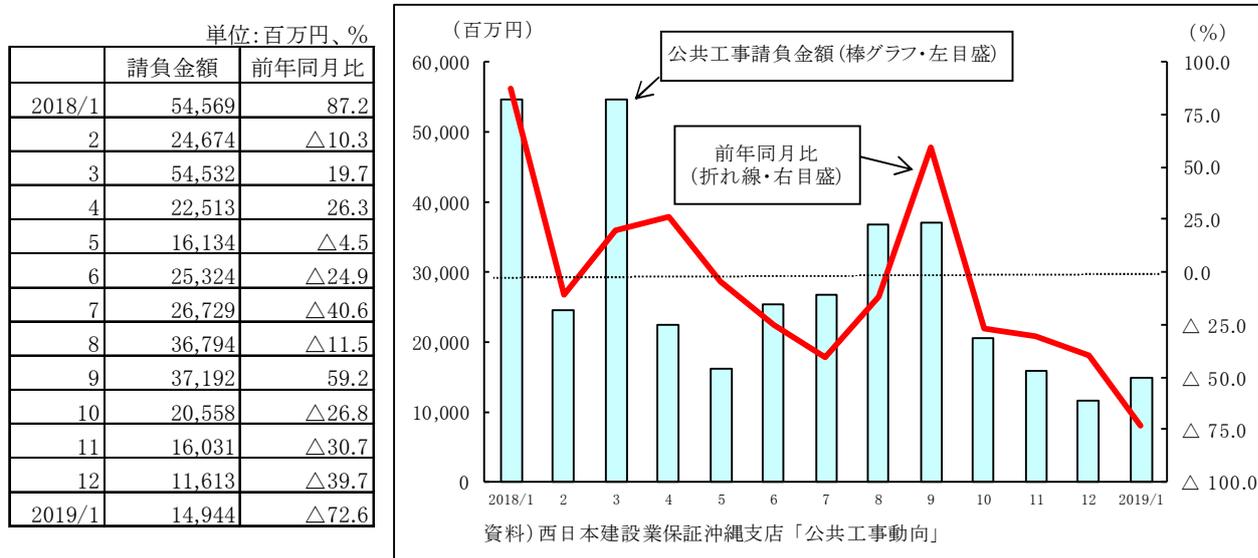
注) 普通乗用車及び小型乗用車は登録車、軽乗用車は届出車の数値を表示。

新車販売台数は、全体で3,575台(同2.9%減)となり、2ヵ月連続で前年同月を下回りました。車種別では、「普通乗用車(同18.5%減)」、「小型乗用車(同3.8%減)」は、レンタカー需要が減少し、2ヵ月連続で前年同月を下回りました。一方、「軽乗用車(同4.5%増)」は、自家用車需要が好調だったことから、5ヵ月連続で前年同月を上回りました。

※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。

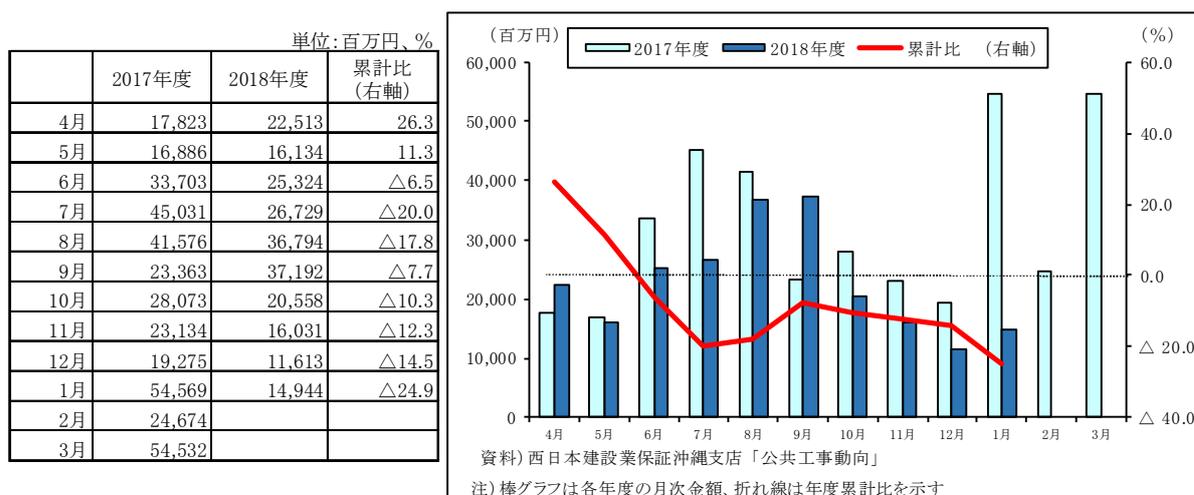
■ 建設関連：  (良い)

①公共工事・・・公共工事請負金額は前年同月を下回る。



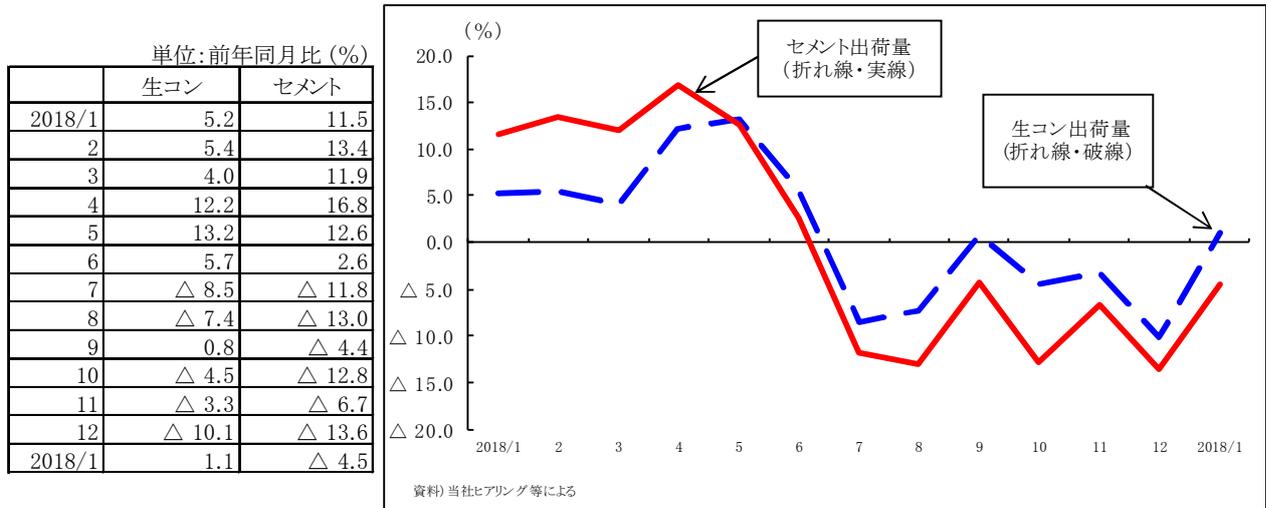
1月の公共工事請負金額は、前年同月比72.6%減の149億4,400万円となりました(4ヵ月連続減)。発注者別でみると、「その他の公共的団体(同368.3%増)」は前年同月を上回りましたが、「国(同87.0%減)」のほか、「独立行政法人等(同8.9%減)」や「沖縄県(同30.8%減)」、「市町村(同34.6%減)」は下回りました。

【参考】公共工事(年度累計)・・・公共工事請負金額は前年同期を下回る。



今年度累計値では、24.9%減となっています。(上記折れ線グラフ)

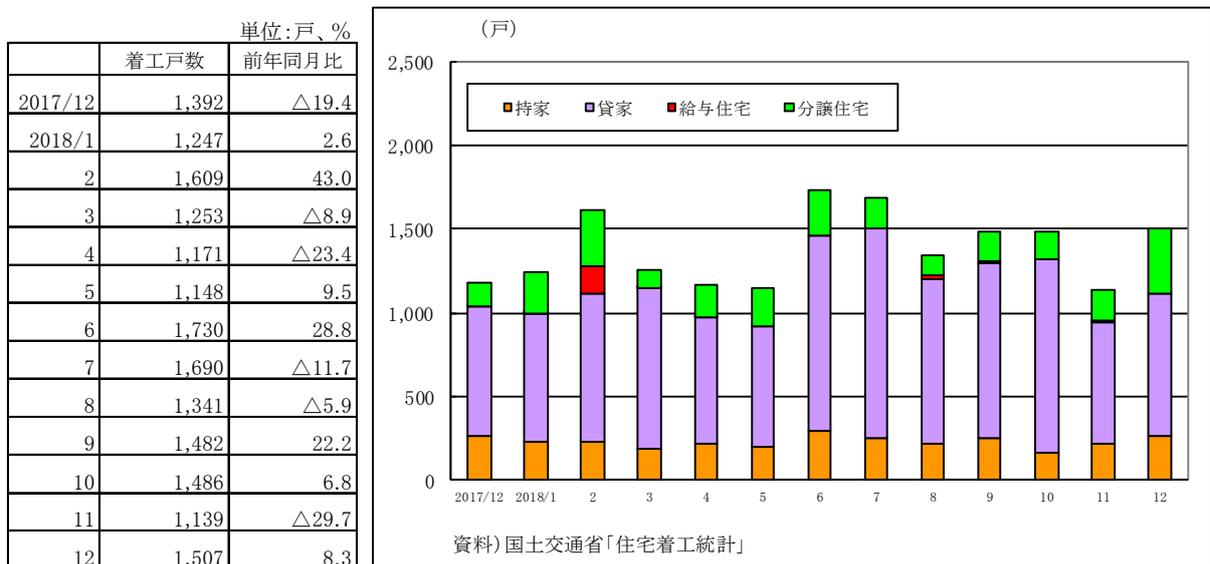
②建設資材・・・生コンは前年同月を上回り、セメントは下回る。



(注1) セメント出荷量は、速報値につき、確報にて修正される場合がある

建設資材関連では、生コンの出荷量は1.1%増と4ヵ月ぶりに前年同月を上回りました。内訳では、公共工事向け出荷が前年同月より8.7%下回り、民間工事向け出荷は7.0%上回りました。セメント出荷量は4.5%減と7ヵ月連続で前年同月を下回りました。

【参考】住宅投資(12月)・・・着工戸数は前年同月を上回る。

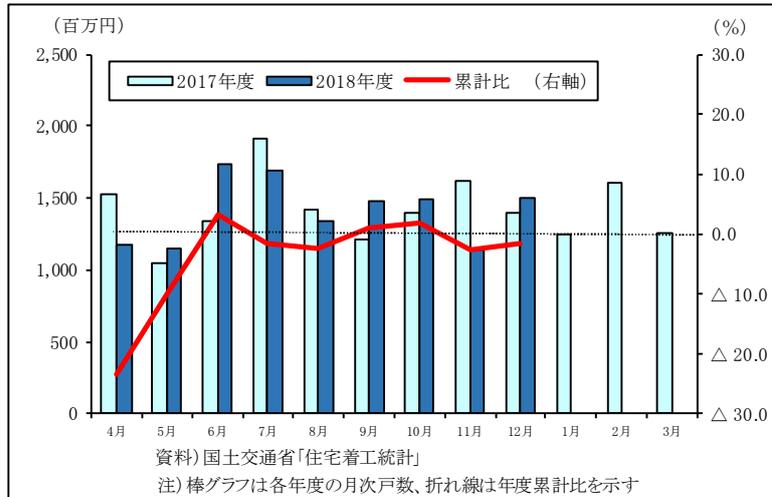


新設住宅着工戸数(12月)は、全体で前年同月比8.3%増の1,507戸と2ヵ月ぶりに前年同月を上回りました。利用別戸数をみると、ウェイトの高い「貸家(同9.7%増)」のほか、「持家(同0.4%増)」や「分譲住宅(同11.6%増)」は前年同月を上回りました。一方、「給与住宅(同100.0%減)」は下回りました。

【参考】住宅投資（年度累計）・・・12月までの着工戸数は前年同期を下回る。

単位:百万円、%

	2017年度	2018年度	累計比 (右軸)
4月	1,528	1,171	△23.4
5月	1,048	1,148	△10.0
6月	1,343	1,730	3.3
7月	1,915	1,690	△1.6
8月	1,425	1,341	△2.5
9月	1,213	1,482	1.1
10月	1,392	1,486	1.9
11月	1,620	1,139	△2.6
12月	1,392	1,507	△1.4
1月	1,247		
2月	1,609		
3月	1,253		

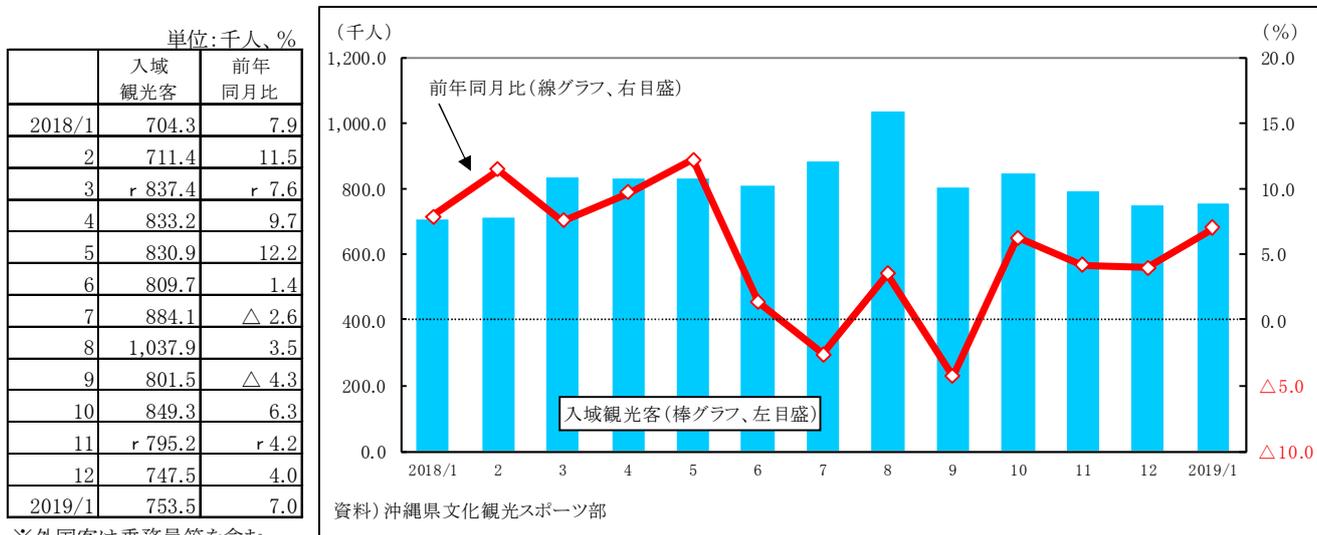


年度累計で見ると、12月までの累計値で1.4%減となっています。



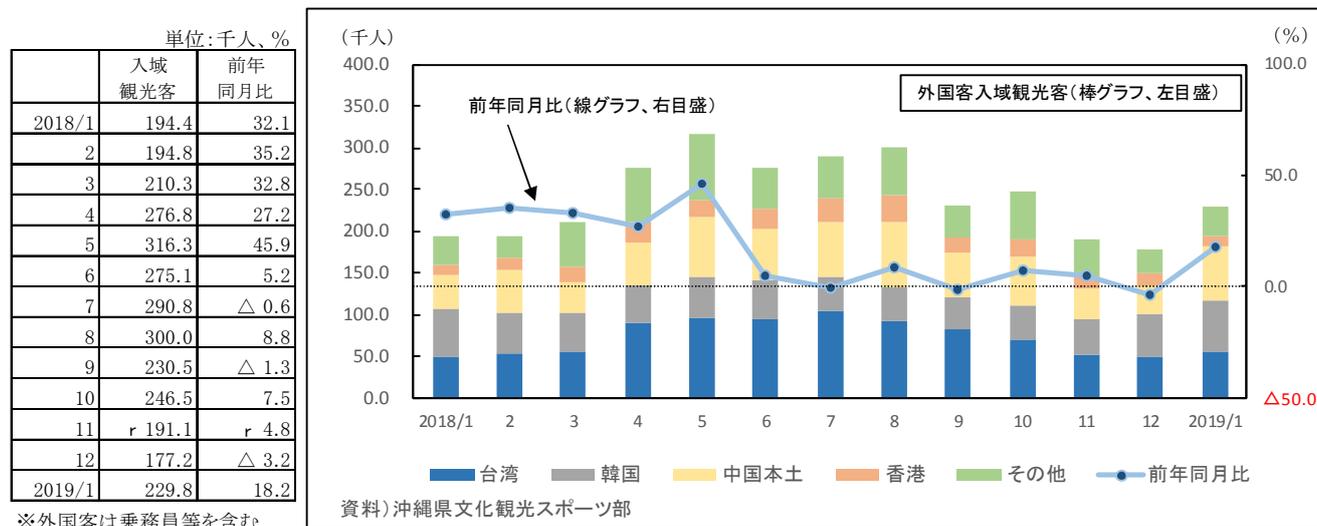
■観光関連： (やや良い)

①入域観光客数 (国内客・外国客の合計)・・・4ヵ月連続で前年同月を上回る。



※外国客は乗務員等を含む

外国客 入域観光客数・・・2ヵ月ぶりに前年同月を上回る。



※外国客は乗務員等を含む

1月の入域観光客数は、49,200人多い753,500人(前年同月比7.0%増)となり、4ヵ月連続で前年同月を上回りました(1月としては過去最高)。

内訳をみると、「国内客(同2.7%増)」は523,700人と、航空会社の先行割引航空券やダイナミックパッケージの販売が良好だったことや、旅行商品販売の取組強化があったことなどから、4ヵ月連続で前年同月を上回りました。

他方、「外国客(同18.2%増)」は、229,800人と2ヵ月ぶりに前年同月を上回りました。航空路線の拡充や、クルーズ船の寄港が増加したことなどから、前年同月を上回りました。

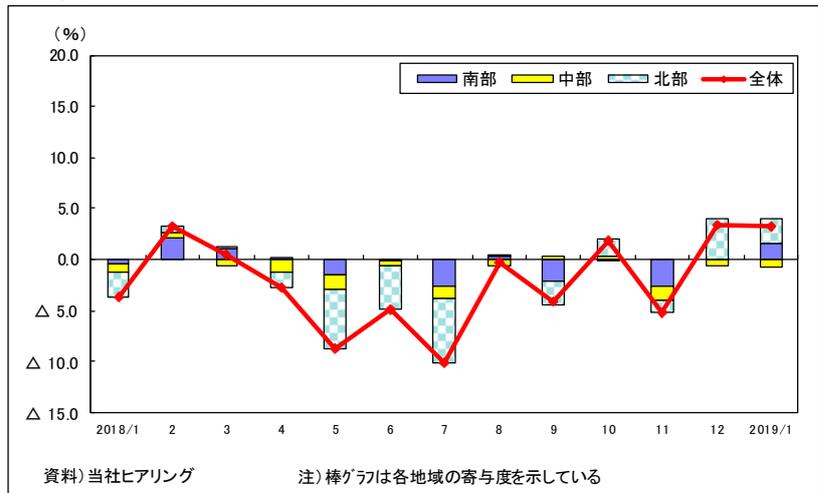
「台湾(同10.2%増)」「韓国(同6.1%増)」「中国本土(同70.3%増)」「香港(同21.2%減)」

※乗務員等を除く2019年1月実績＝全体726,200人(同6.6%増)、外国客202,500人(同18.4%増)、国内客は変わらない。

② 観光施設入場者数・・・2ヵ月連続で前年同月を上回る。

単位: %

	入場者数(前年同月比)			
	全体	南部	中部	北部
2018/1	r △ 3.7	△ 1.2	r △ 6.0	△ 5.1
2	r 3.2	5.6	r 4.6	1.2
3	r 0.5	2.6	r △ 4.8	0.1
4	r △ 2.8	0.1	r △ 10.7	△ 3.1
5	r △ 8.7	△ 4.0	r △ 12.7	△ 11.7
6	r △ 5.0	△ 0.5	r △ 4.6	△ 8.4
7	r △ 10.2	△ 7.8	r △ 12.2	△ 11.3
8	r △ 0.3	1.0	r △ 6.5	0.1
9	r △ 4.2	△ 5.9	r 3.2	△ 4.2
10	r 1.8	△ 0.6	r 2.3	3.6
11	r △ 5.2	△ 6.1	r △ 11.3	△ 2.8
12	r 3.4	r 0.1	r △ 4.3	8.7
2019/1	3.3	4.1	△ 6.1	5.1



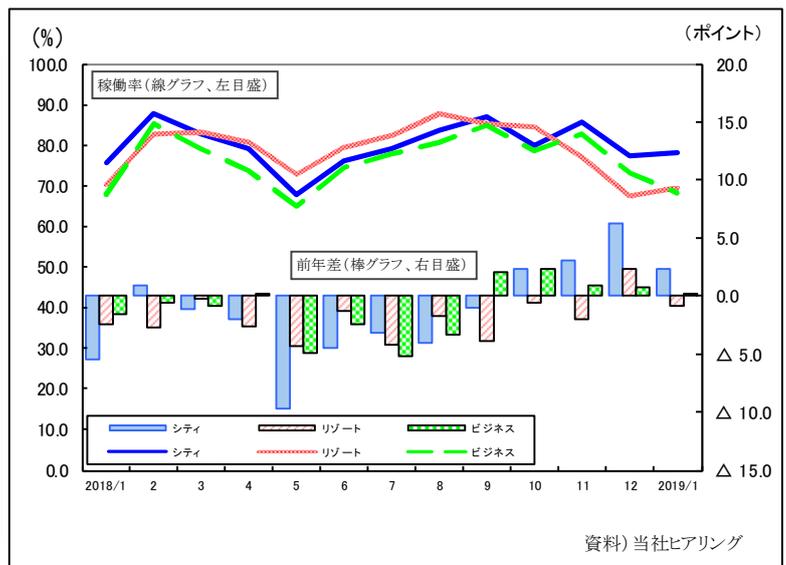
※調査対象施設数＝南部6、中部5、北部5施設
 ※2019年1月より、中部の対象施設数が変更(6⇒5)となったことから、2018年1月以降の数値を遡って改定した。
 ※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

観光施設入場者数は、全体で前年同月より 3.3%増加(2ヵ月連続)しました。地域別にみると、南部にある観光施設は同 4.1%増と2ヵ月連続、北部は同 5.1%増と2ヵ月連続で前年同月を上回り、中部は同 6.1%減と3ヵ月連続で前年同月を下回りました。

③ ホテル稼働率・・・シティホテル、ビジネスホテルは前年同月を上回り、リゾートホテルは下回る。

単位: %、ポイント

	稼働率			前年同月差		
	シティ	リゾート	ビジネス	シティ	リゾート	ビジネス
2018/1	75.8	70.5	68.0	△ 5.5	△ 2.4	△ 1.6
2	87.8	82.8	85.2	0.9	△ 2.7	△ 0.5
3	82.8	83.0	79.0	△ 1.2	△ 0.2	△ 0.8
4	78.9	80.5	73.6	△ 2.0	△ 2.6	0.2
5	67.9	72.9	65.0	△ 9.7	△ 4.3	△ 4.9
6	76.0	79.5	74.4	△ 4.5	△ 1.3	△ 2.5
7	79.0	82.4	77.8	△ 3.2	△ 4.2	△ 5.2
8	83.5	87.9	80.5	△ 4.1	△ 1.7	△ 3.3
9	87.0	85.4	84.9	△ 1.0	△ 3.9	2.1
10	79.9	84.4	78.7	2.4	△ 0.5	2.4
11	85.5	76.9	82.7	3.1	△ 2.0	0.9
12	77.5	r 67.3	73.2	6.3	r 2.3	0.7
2019/1	78.2	69.6	68.2	2.4	△ 0.9	0.2

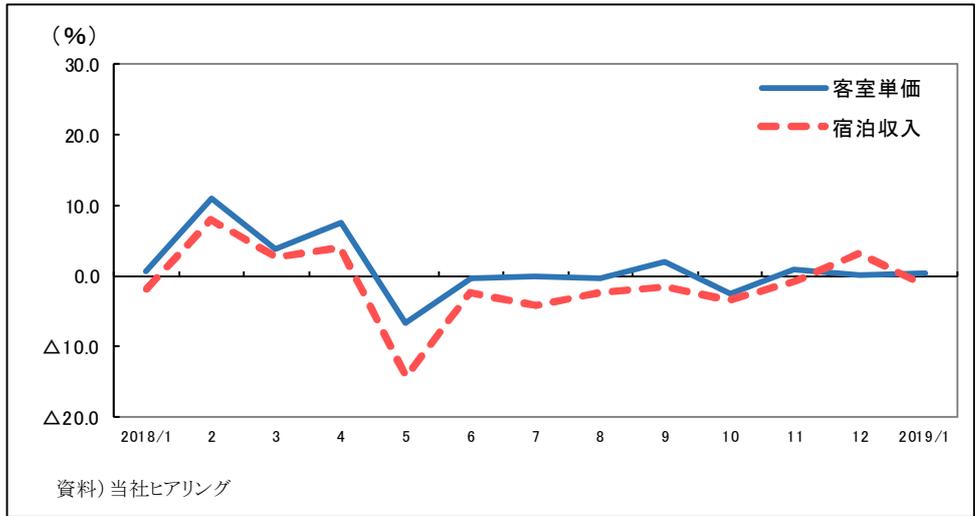


注)シティ8ホテル、リゾート18ホテル、ビジネス7ホテル
 注)2018年4月については、サンプル調査の都合上、ビジネスホテルは6ホテルとなっている。
 ※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

県内ホテル稼働率は、シティホテルが 78.2%と 2.4ポイント上昇(4ヵ月連続)、リゾートホテルが 69.6%と 0.9ポイント減少(2ヵ月ぶり)、ビジネスホテルが 68.2%と 0.2ポイント上昇(5ヵ月連続)しました。

④ ホテル客室単価・宿泊収入・・・客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入は下回る。

単位:%		
	客室単価	宿泊収入
2018/1	r 0.7	r △1.9
2	11.1	7.9
3	4.0	2.8
4	7.5	4.1
5	△6.7	△14.3
6	△0.5	△2.4
7	△0.1	△4.2
8	△0.5	△2.4
9	2.1	△1.6
10	△2.5	△3.5
11	0.9	△0.8
12	r 0.1	r 3.3
2019/1	0.3	△1.4



※対象施設数:26施設(シティ8、リゾート18)、ビジネスは除く

※客室単価は26施設の平均値、宿泊収入は各施設の推計値の総額(稼働率及び客室単価より当社推計)

※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

ホテル客室単価(シティ&リゾート)は前年同月比 0.3%増と前年同月を上回りました。**宿泊収入**は同1.4%減と前年同月を下回りました。

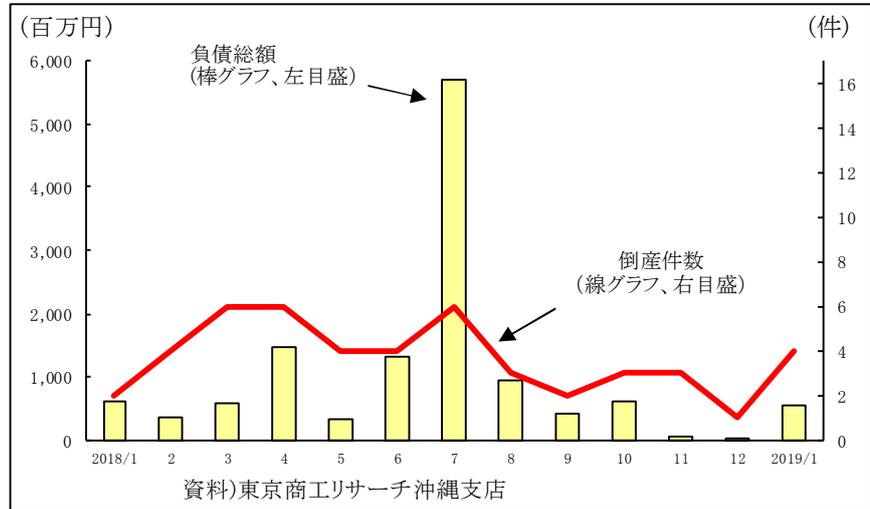


■企業倒産： (やや良い)

企業倒産・・・件数は前年同月を上回り、負債総額は下回る。

単位:百万円、件

	負債総額	倒産件数
2018/1	620	2
2	366	4
3	576	6
4	1,467	6
5	347	4
6	1,317	4
7	5,697	6
8	941	3
9	414	2
10	605	3
11	56	3
12	10	1
2019/1	560	4



1月の企業倒産件数は、4件(うち大型倒産は2件)となり、同100.0%増と前年同月を上回りました。
負債総額は5億6,000万円となり、前年同月より9.7%減となりました。

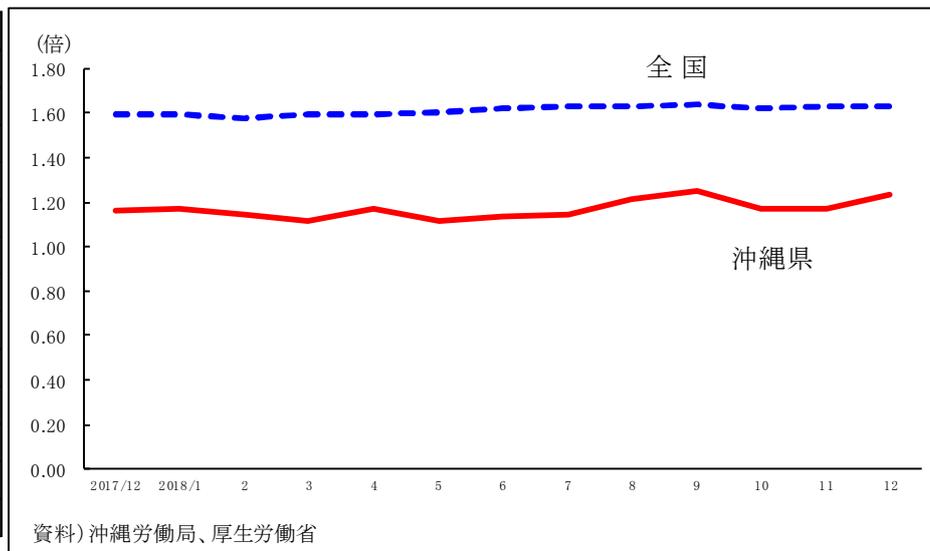


【参考】雇用関連： (良い)

有効求人倍率(12月)・・・沖縄は前月より上昇、全国は同水準。

単位:倍

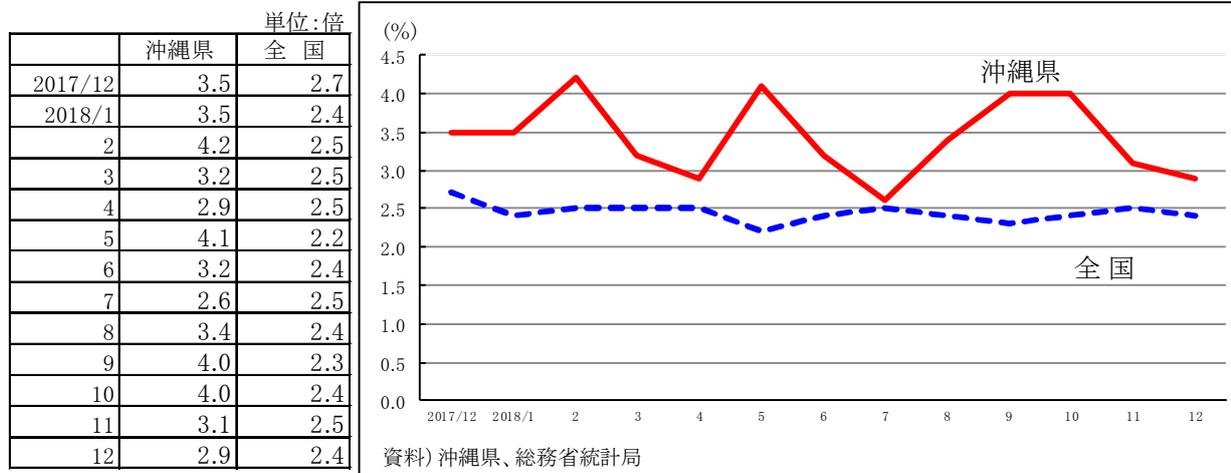
	沖縄県	全国
2017/12	1.16	1.59
2018/1	1.17	1.59
2	1.14	1.58
3	1.12	1.59
4	1.17	1.59
5	1.12	1.60
6	1.13	1.62
7	1.14	1.63
8	1.21	1.63
9	1.25	1.64
10	1.17	1.62
11	1.17	1.63
12	1.23	1.63



注)季節調整済

12月の雇用状況は、月間有効求人数(季節調整値)は前月比8.0%増の31,111人に対して、月間有効求職者数(同上)は前月比2.6%増の25,351人となり、有効求人倍率(季節調整値)は1.23倍となり前月より0.06ポイント上昇しました。

完全失業率（12月）・・・沖縄、全国はともに前月より低下。



注) 季節調整済

12月の完全失業率(季節調整値)は、2.9%となり前月より0.2ポイント低下しました。